

## SGH(スーパーグローバルハイスクール)概要

本校は、平成26年度から、文部科学省より「急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを高等学校段階から育成する」ことを目的とした『スーパーグローバルハイスクール(SGH)』に指定されました。

### 教育プログラム「アジアと学び合う—夢を実現する国づくり—」の目的と内容

本校では、全地球的視野と歴史的教養に裏付けられた、豊かな人間性と知識をもち、自国の問題と世界の問題を互いに関係づけてグローバルな社会課題を把握し、その解決と理想の実現に向けて、自ら行動をおこすことができる人材を育成することを目的とした、「アジアと学び合う—夢を実現する国づくり—」と題した教育プログラムを実践していきます。

具体的には、以下のような研究を実施していきます。

- ・東南アジアの国づくりを知り、日本の国づくりへの提言を行うための研究
- ・フィールドワークや統計処理等、研究手法の習得と実施に関する研究
- ・「超高校生レベル」の英語コミュニケーション能力を養成する研究

### 3つのステージ

研究実施方法としては、次の3つのステージを設定します

#### 【ステージ1（第1学年）】

「総合英語」「国際情報」等の授業や「SGH課題研究基礎講座」等の特別講座を通じて、本格的な課題研究に必要な情報獲得力、プレゼンテーション基礎技術、課題研究テーマの基礎知識を身につけさせる。

#### 【ステージ2（第2学年）】

「課題研究」において、アジア探究グループを選抜し、特別講演等も活用し4つのアプローチ(後述)から研究を進め、取り組みを学校全体へ広める中心的役割を果たす。また、長期休業期間を利用して海外フィールドワーク等も行う。

#### 【ステージ3（第3学年）】

年度当初に、2年間の課題研究で得た成果や反省点について論文集を編集発行し、広く学校内外へ発信する。また、「英語表現」「英語演習C」の授業において、課題研究テーマに即した時事問題や経済論文を読み、社会課題をもとにしたレポートを英語で作成しまとめ、今後の本校における研究開発の資料とする。

### 4つのアプローチ

第2学年の「課題研究」の「アジア探究グループ」は、次の4つのアプローチで研究を進めることとなります。

#### 【① 比較文化的アプローチ】

「日本の広告と海外の広告を比較研究する」 日本国内とアジア諸国の広告表現(デザイン・コピー)などを切り口に探究・考察を行う。

## 【② 経済的アプローチ 1】

「日本企業の東南アジア進出について考察する」 東南アジアに進出している企業の実態を調査・研究し、東南アジア地域社会との持続可能なパートナーシップのあり方を模索する。

## 【③ 経済的アプローチ 2】

「東南アジアへの日本の防災技術の輸出を探究する」 自然災害の多い点で、日本と東南アジアは共通している。しかし国ごとに自然災害の種類は異なり、必要とされる防災対策も異なっている。地域社会に寄り添う防災・復興のあり方について考える。

## 【④ 歴史的アプローチ】

「日本と外国の関わりの現在・過去・未来を労働力の移動の観点から探究する」 東南アジアの国づくりに重要な役割を果たした「労働力の移動」としての移民問題について探究する。日本から移民としてハワイやブラジルに渡り、他国の国づくりに関わった事例も合わせて探究することにより、今後の日本の国づくりの在り方について提言を行う。

## 研究成果の発信

- ・本校主催の研究発表大会を行い、専門家とも意見を交換して学びを深める。
- ・大阪府指定 GLHS(グローバルリーダーズハイスクール)主催、GLHS10校合同発表会等において研究発表を行う。
- ・学校ホームページで日本語、英語により研究成果を全世界に発信する。
- ・近隣の小中学校や地域住民を含めた一般参加型公開発表会を実施する。

## 国際化を進める連携機関

- ・京都大学  
東南アジア研究所 工学部地球工学科国際コース 地域研究統合情報センター
- ・大阪大学 ・大阪教育大学 ・関西学院大学
- ・ハワイ大学ほかグローバル大学
- ・JICA 関西 ・グローバル企業 ・JETRO

SGHプログラムでは、英語によるコミュニケーション能力を発揮できる生徒育成に力を入れています。各種発表・提言の場で英語プレゼンテーションを行うほか、大阪府教育委員会によるSET（スーパーイングリッシュティーチャー）制度とSGHプログラムの連携を、平成27年度から実施しています。